



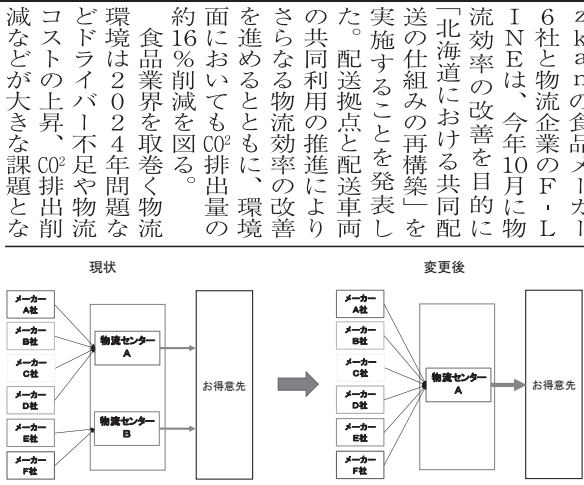
食品メーカー6社
とF・LINE

共同配送の拠点集約

物流改善、CO₂削減を推進

味の素社、カゴメ、日清オイログループ、日清製粉ウエルナ、ハウス食品グループ本社、Mizkanの食品メーカー6社と物流企業のF・LINEは、今年10月に物流効率の改善を目的に「北海道における共同配送の仕組みの再構築」を実施することを発表した。配送拠点と配送車両の共同利用の推進によりさらなる物流効率の改善を進めるとともに、環境面においてもCO₂排出量の約16%削減を図る。

と食品業界全体の物流インフラの社会的・経済的合理性を目指し、16年4月からは共同配送の推進を北海道で実施していた。今回、2カ所ある保管・



マヨドレなど生産ライン増設
マヨドレは、グループ会社のキューピーインドネシアの本社工場に、マヨネーズやドレッシングなど調味料の生産ラインを増設、生産能力を約2.6倍に高めることを発表した。24年11月の稼働を予定する。これにより、東南アジア最大の人口を有し経済成長を続けるインドネシア国内への供給体制を強化、事業展開を加速する。

国分G、双日
ベトナム4温度帯物流事業を拡大

国分グループ本社と双日は、ベトナムの流通大手New Land Company Ltd (以下NL)と共同で、New Land Vietnam Japan LLC (以下NLVJ)を設立し、ベトナム南部で4温度帯物流倉庫の運営を行っている。同国は経済成長による生活者の購買力向上に伴い、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなど近代的な小売業態が急速に発展し、安定的かつ高品質な低温物流ニーズが高まっている。今回設立したNLVJは、国分、双日、NLの3社共同で運営するベトナム大手食品卸事業会社Hong Thuy

Mizkan X 半田市
ペットボトル協定を締結

Mizkanと半田市は「資源循環型社会の実現に向けたペットボトルの水平リサイクルに関する協定書」を締結し、半田市役所にて締結式を行った。

同協定は半田市が排出・回収した使用済みペットボトル(年間数量約500t)を「ボトルtoボトル」水平リサイクルの手法で新たなPETボトルを再生し、同社製品の原料として使用するというもの。調味料メーカーと自治体が一丸となって、自然の恵みに感謝し、学び、人の健康だけでなく、

と、環境負荷低減に寄与する道内遠隔地納品の鉄道輸送活用を検討するほか、中・長距離幹線輸送ルートの再構築、物流の効率化・各種標準化(伝票電子化、外装サイズ等)などにも取り組む。食品企業の物流プラットフォームの高次化に向けた持続可能な物流体制のさらなる構築を進める。

今後のステップとして「競争は商品で、物流は共同で」の理念の実現する。

インドネシアは今後も人口増加が見込まれるほか、経済成長で世帯所得が増加している。今回の増設では自動化設備を導入され、品質や生産性の向上にもつながる。さらに、再生可能エネルギーへの転換などにも取り組む。30年までに生産量当たりのCO₂排出量を50%以下(18年度比)に削減することを目指す。なお、キューピーインドネシアはイスラム教徒の人が安心して食べられるよう、製造・販売する全ての商品で「ハラール食品」の認証を取得している。

同社は今後も、同国の多様性や現地の食文化・料理に合わせた商品やメニューの提案を通じ、同国の食の発展に貢献することを目指す。

自然のおいしさ!!
エジマ ジャム
小島食品製造株式会社
本社 東海市名和町一番割中25
電話 <052>603-3511

「人と社会と地球の健康」を掲げ、地球の健康と人のいのちを育むために、自然の恵みに感謝し、学び、人の健康だけでなく、

と、環境負荷低減に寄与する道内遠隔地納品の鉄道輸送活用を検討するほか、中・長距離幹線輸送ルートの再構築、物流の効率化・各種標準化(伝票電子化、外装サイズ等)などにも取り組む。食品企業の物流プラットフォームの高次化に向けた持続可能な物流体制のさらなる構築を進める。

「ブランド」の確立
メーカー、小売企業の発表会で頻繁に出てくる言葉が「商品、店舗の」ブランド価値をさらに高める「ブランド力」をさらに強化、磨き上げる。だ。競争で優位に立つために有力なブランドの確立は必須であり、特に保守的で安心感を求める日本人には重要な要素だ。かつて、セゾングループ率いる堤清二氏は実用性やシンプルさを重視し、アンチブランドを打ち出した「無印良品」を立ち上げた。今や立派なブランドとなる。「無印良品」は系列的にはファミリーマートだが、時を経てローソンの店内でコーナー化され、強力なコンテンツとなる。そのファミリーマートとながりを待つドン・キホーテは知名度の高さを活かし独自のプライベートブランドを立ち上げ急拡大中だ。安心重視、失敗したくない意識は今や若年層にも高まっているという。ブランドの確立にヒトや金を投入する動きは今後も続きそうだ。

社会的健康や地球の健康にまで広げて考えていくことを宣言。キッコーマン、キューピー、日清オイログループと同社を含むメーカー4社による昨年の共同研究から、物理的再生法でリサイクルしたペットボトルの液状調味料・食用油の容器としての安全性を確認。この成果をまとめた論文が評価され、日本食品化学学会より、「第18回論文賞」を受賞した。

久世孝宏半田市長は「地元企業とともに取り組むことに意義があると強く感じている。これをきっかけに、さらに半田市を活性化させ、資源循環型社会が実現できるように目指していきたい」と挨拶した。吉永智征社長兼CEOは「ペットボトルのリサイクルに関する協定は初めてとなるが、創業の地である半田市と結ぶことは大変感慨深い」と述べた。

と、環境負荷低減に寄与する道内遠隔地納品の鉄道輸送活用を検討するほか、中・長距離幹線輸送ルートの再構築、物流の効率化・各種標準化(伝票電子化、外装サイズ等)などにも取り組む。食品企業の物流プラットフォームの高次化に向けた持続可能な物流体制のさらなる構築を進める。

と、環境負荷低減に寄与する道内遠隔地納品の鉄道輸送活用を検討するほか、中・長距離幹線輸送ルートの再構築、物流の効率化・各種標準化(伝票電子化、外装サイズ等)などにも取り組む。食品企業の物流プラットフォームの高次化に向けた持続可能な物流体制のさらなる構築を進める。

N
ニチレイ
1秒に1個以上
売れている。
本格炒め炒飯

冷凍食品はニチレイ
22年連続売上NO.1
本格炒め炒飯
450g
※写真はイメージです
※22年連続売上NO.1: インター・SRI+冷凍調理炒飯市場2017年3月~
2023年2月 各年累計販売金額 /
インター・SRI冷凍調理炒飯市場2001年3月~2017年2月 各年累計販売金額
※1秒に1個以上売れている:
2021年3月~2023年2月のインター・SRI+推計販売規模(個数)より算出
株式会社ニチレイフーズ
ニチレイ 本格炒め炒飯 検索
お買い求めは冷凍食品売り場で